

2026 年 10 月 16 日

インド、9月インフレ率は前年比+5.54%に一段と加速(Asia Weekly)

～オーストラリア、大都市部を中心とする雇用に変調の兆し～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(TEL: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

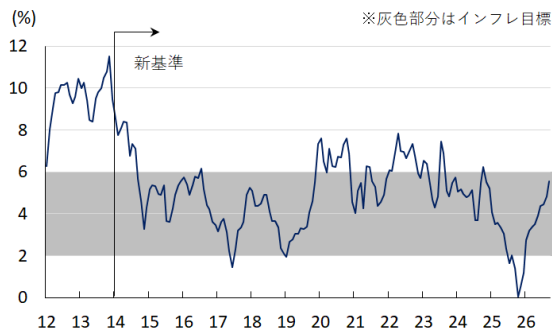
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
10/12(月)	(インド)9月消費者物価(前年比)	+5.54%	+5.40%	+4.82%
10/14(水)	(シンガポール)7-9月実質GDP(前年比・速報値)	+5.4%	+5.0%	+5.9%
	(中国)9月消費者物価(前年比)	+0.9%	+1.0%	+0.8%
	9月生産者物価(前年比)	+5.0%	+5.0%	+3.8%
	9月輸出(前年比)	+36.3%	+25.5%	+25.0%
	9月輸入(前年比)	+31.0%	+24.5%	+28.2%
10/15(木)	(オーストラリア)9月失業率(季調済)	4.7%	4.6%	4.7%
10/16(金)	(韓国)9月失業率(季調済)	2.6%	--	2.7%
	(シンガポール)9月非石油輸出(前年比)	+68.4%	+32.2%	+46.1%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[インド]～9月インフレ率は2年弱ぶりの高い伸びに、コアインフレ率も加速するなどインフレ圧力が強まる～

12日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+5.54%となり、前月(同+4.82%)から加速して2024年10月以来の高い伸びとなった。前月比は+0.69%と前月(同+0.73%)からわずかに上昇ペースが鈍化したものの、原油価格が再び上昇していることを反映してエネルギー価格の上昇が続いているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇しており、生活必需品を中心とするインフレが続いている。食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+4.33%となり、前月(同+4.16%)から加速した。前月比は+0.40%と前月(同+0.54%)から上昇ペースが鈍化したものの、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの増加に加え、金融市場でのルピー安による輸入インフレも重なり、幅広い財で価格が上昇している。さらに、サービス物価も上昇基調で推移しており、インフレ圧力が広がっている様子がうかがえる。

図 1 IN インフレ率の推移

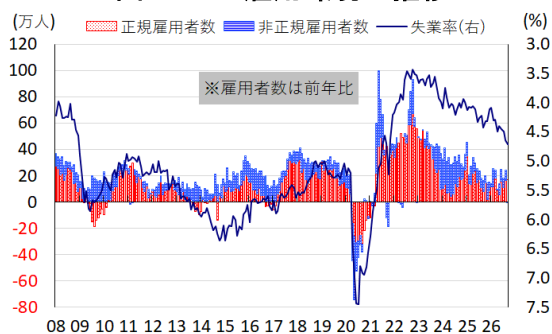


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[オーストラリア]～大都市部を中心に雇用に変調、労働市場への参入意欲にも陰りの兆し～

15日に発表された9月の失業率(季調済)は4.7%となり、前月(4.7%)から2ヵ月連続で横ばいとなった。失業者数は前月比+0.9万人と前月(同+2.8万人)から4ヵ月連続で増加した。雇用形態別では、パートタイムの求職者数(同▲0.9万人)が2ヵ月ぶりの減少に転じる一方、フルタイムの求職者数(同+1.8万人)は4ヵ月連続で増加しており、失業者数全体を押し上げている。一方、雇用者数は前月比▲3.9万人と前月(同+2.9万人)から2ヵ月ぶりの減少に転じた。雇用形態別では、フルタイムの雇用者数(同+3.4万人)が2ヵ月ぶりの増加に転じる一方、パートタイムの雇用者数(同▲7.4万人)が減少に転じ、雇用全体を押し下げた。地域別では、資源関連産業が集積する西オーストラリア州で雇用の増加基調が続いているものの、最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州や、第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州では雇用が減少するなど、大都市部を中心に雇用環境に変化の兆しがみられる。さらに、労働力人口は前月比▲3.0万人と前月(同+5.7万人)から2ヵ月ぶりの減少に転じた。労働参加率も66.8%と前月(67.0%)から0.2pt低下しており、雇用環境の悪化を背景に、労働市場への参入意欲にも陰りが出つつある様子がうかがえる。

図 2 AU 雇用環境の推移



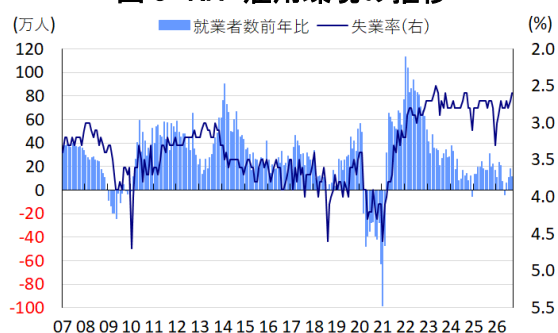
(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[韓国]～高齢層で雇用に頭打ちの一方、若年層に持ち直しの動き、雇用環境に変化の兆し～

16日に発表された9月の失業率(季調済)は2.6%となり、前月(2.7%)から0.1pt改善した。失業者数は前月比▲4.6万人と前月(同▲3.3万人)から2ヵ月連続で減少しており、年代別では20代や30代のほか、50代や60代以上など幅広い年代で減少する動きがみられる。一方、雇用者

数は前月比+4.1万人と前月（同+8.2万人）から4ヵ月連続で増加した。年代別では、10代や20代といった若年層のほか、30代でも増加ペースが加速しているうえ、60代以上でも増加が続いている。雇用形態別では、正規雇用者を中心に増加する一方、非正規雇用者は減少するなど、対照的な動きがみられる。こうしたなか、労働力人口は前月比▲0.1万人と前月（同+0.5万人）から4ヵ月ぶりの減少に転じた。年代別では、10代や30代などで増加する一方、50代を中心に減少する動きがみられ、中高年層の一部で労働市場からの退出が進んでいる可能性がうかがえる。その一方、これまで厳しい状況が続いてきた10代や20代など若年層の雇用環境には持ち直しの動きがみられており、年代によって雇用情勢に違いが現れつつある。

図3 KR 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[シンガポール]～世界的な AI・半導体需要の旺盛さが景気と外需を押し上げる展開が続く～

14日に発表された7-9月の実質GDP成長率（速報値）は前年同期比+5.4%となり、前期（同+5.9%）から伸びが鈍化した。前期比年率ベースの成長率も+4.42%と前期（同+6.15%）から鈍化したものの、引き続きプラス成長を維持するなど、景気は堅調に推移している。分野別の動きをみると、世界的なAI（人工知能）・半導体関連需要の旺盛さを反映して、電子部品関連のほか、精密機械関連や一般機械関連の生産は堅調に推移した。一方、化学製品関連や医薬品関連の生産低迷が重しとなり、製造業全体の生産は伸び悩んだ。また、AI・半導体関連需要の旺盛さを受けた設備投資やデータセンター関連投資の活発化に加え、公共投資の進捗を反映して、建設業の生産は上振れしている。さらに、小売・卸売関連のほか、運輸・貿易関連、金融関連など幅広いサービス業で生産が拡大しており、景気拡大を下支えしている様子が見えてくる。

16日に発表された9月の非石油輸出額は前年同月比+68.4%となり、前月（同+46.1%）から伸びが加速した。前月比も+25.53%と前月（同+10.78%）から2ヵ月連続で拡大しており、持ち直しの動きを強めている。化学製品関連や医薬品関連のほか、食料品関連の輸出に下押し圧力がかかったものの、半導体など電子部品関連や精密機械関連のほか、鉄鋼製品関連や鉱物資源関連の輸出は旺盛に推移している。原油関連を含む総輸出額も前年同月比+51.5%となり、前月（同+49.2%）から伸びが加速した。前月比も+5.1%と前月（同+3.1%）から4ヵ月連続で拡大しており、単月ベースの輸出額は過去最高を更新した。一方、輸入額は前年同月比+49.9%となり、前月（同+39.3%）から伸びが加速した。前月比も+12.4%と前月（同▲0.3%）から2ヵ月ぶりの拡大に転じており、輸出と同様に持ち直しの動きをみせている。輸出の堅調さを背景に、設備機械関連や素材・

部材関連など幅広い品目で輸入が拡大しているほか、原油をはじめとする商品市況が再び上昇していることも輸入額を押し上げている。その結果、貿易収支は+100.77 億SGドルと前月（+124.63 億SGドル）から黒字幅が縮小した。

図 4 SG 実質 GDP 成長率(前期比年率)の推移

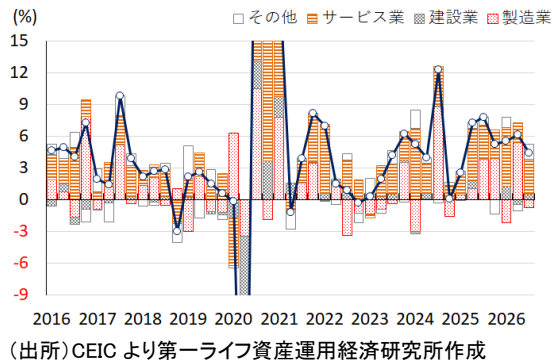
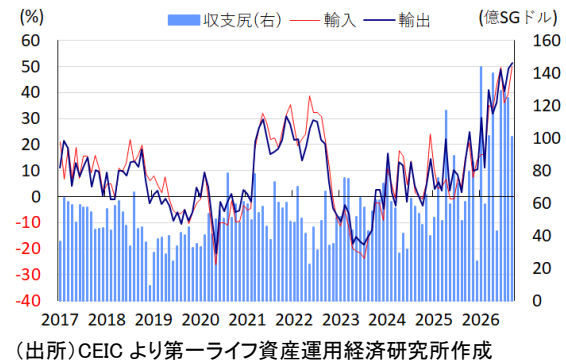


図 5 SG 貿易動向の推移



以 上